



説教要旨 「わからなくて当たり前」

ヨハネによる福音書7章25～31節

ユダヤの三大祭りのひとつである仮庵祭の頃、イエス様は神殿に行って、そこで教えておられました。しかし人々は「わたしたちは、この人がどこの出身かを知っている。メシアが来られるときは、どこから来られるのか、だれも知らないはずだ。」(27 節) と言って懐疑的な姿勢を崩してはいませんでした。彼らは、イエス様がメシア、つまり救い主でない理由として、その素性を自分たちが知っていることを挙げています。メシアは突如として現われると信じられていましたので、それを根拠にイエス様がメシア、救い主であることを否定しようとするのです。

そこで、イエス様は彼らに答えられます。「わたしをお遣わしになった方は真実であるが、あなたがたはその方を知らない。…」(28 節) “あなたがたは神様のことを知らないでいる。そのあなたたちが、神様の所から来た私の何を知っているというのだ。” と。

「あなたたちはその方を知らない。」(28 節) この言葉を、私たちはしっかりと受け止めなければなりません。当時の人たちは、私たちのように一人一人が自分の聖書を持ってなどいませんでした。神殿や、町の会堂に巻物としてあるのを、集まってそれを読む、あるいは聞く。そうしなければ聖書のみ言葉に触れることはできないわけです。それと比べれば、私たちは一人一人が聖書をもって、別に教会に来なくても、み言葉に触れることができます。だからといって、神様のことを知ることができているかという、疑問符がつくのではないのでしょうか。

私たちはこの言葉をしっかりと受け止め、自分が何も知らないことに向き合わなければならないでしょう。神様のことも、神様のご計画も、私たちにははかり知ることなど逆立ちしてもできないのです。

しかし神様を直接知っておられるイエス様によってただ一つのことだけを知ることができました。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。」(ヨハネ 3:16)

何も知らない私たちに、イエス様はその身をもってこの神の愛を示してくださったのです。

(2019・12・1 説教者：稲垣真実)